

コミュニティソーシャルワーカーを新たに配置

○包括的支援体制構築事業費 3,070万1,000円

【概要】 複雑・多様化する福祉問題に対応するための包括的支援体制の構築に向けて、相談支援機関のコーディネート業務などを行う相談支援包括化推進員とコミュニティソーシャルワーカーを配置するもの。

質疑 令和4年度から新たに配置するコミュニティソーシャルワーカーは何人配置するのか。また、コミュニティソーシャルワーカーと地域包括支援センターおよび地域づくり協議会はどのように連携を図るのか。

答弁 令和4年度から、相談支援包括化推進員の役割を兼ねたコミュニティソーシャルワーカーを鈴鹿市社会福祉協議会に4人配置し、分野を問わない相談支援や地域支援を行う。コミュニティソーシャルワーカーは、日常生活圏域を考慮して設置されている8カ所の地域包括支援センターが行う地域への相談支援や、それをサポートする基幹型地域包括支援センターとの連携、地域づくりへの支援を行っている生活支援コーディネーターとの連携により、今ある支援体制を補う形で支援を行っている。

産業建設分科会



3月11日
(午前)



3月11日
(午後)

議案第1号 令和4年度鈴鹿市一般会計予算

ため池の防災・減災対策を実施

○農村地域防災減災事業費 2,300万円

【概要】 地震や集中豪雨などによる災害を防止し、農村地域の防災能力の向上を図るため、ため池耐震調査などの総合的な防災・減災対策を実施するもの。

質疑 市内のため池の数はどのくらいか。また、ため池の防災工事計画・耐震点検照査の予定はどうなっているのか。

答弁 市内の農業用ため池の総数は102池である。そのうち地震や集中豪雨などで堤防などが損傷した場合に、周辺人家などに被害が及ぶ危険性がある防災重点農業用ため池は、県により現時点で42池が指定されている。防災重点農業用ため池の整備計画では、平成25年度から耐震照査に着手し、令和3年度末時点で31池が完了している。残る11池の耐震照査に合わせ、国の指針により令和3年度から新たに追加された豪雨調査と劣化状況調査も実施しており、令和6年度までに完了する予定である。



防災重点農業用ため池(浄土池)